

古市で「実践農学」始動

神戸大 農家9軒受け入れ

神戸大学が丹波篠山市内のまちづくり協議会と連携して実施する授業「実践農学入門」が7日、今年度の受け入れ地区の古市地区で始まった。農学部1年生を中心とした学生35人と、篠山東雲高アグリプロダクト類型の



交流する学生と受け入れ農家たち＝丹波篠山市波賀野で

生徒が参加している。実践農学は15年目を迎え、まち協単位では古市が13地区目。同地区の農家9軒が受け入れ、1グループ4～6人に分かれて来年1月までの計8回、実習などを行う。

実践農学は、1年を通して農家に「弟子入り」し、農業や農村に関する理解を深め、「コミュニケーション」能力などを養うのが狙い。初回には、農園代表の



田植えを体験する学生ら＝丹波篠山市不來坂で

さんが所有する不來坂の田んぼ（約8ヶ）で田植えを体験。酒米「五百万石」の苗を手で植えた。酒米を育て、収穫後に「狩場一酒造」（波賀野）で日本酒にする催しを展

開している「ミチのムコウ」プロジェクトのメンバーがサポートした。田植え後は、古市地区のコミュニティ消防セン

ターへ戻り、受け入れ農家が学生たちと交流した。農家たちは、農業のやりがいや苦労などを学生に伝えていた。その後、各集落へ移動し、農家の案内のもと、集落内を歩いて回るグループもあった。

さん（神戸大）は「田んぼに入るのは初めてだった。思ったより足が抜けてなくてびっくりした。将来はこんなところをたくさん見つけてもらいたい、できればターンしてもらえれば」と伝えていた。

2022年5月15日
丹波新聞